

## 北アルプス：奥穂高岳

- ◆日程 2023年7月30日(日)～8月1日(火)  
 ◆メンバー L: OY

夏休みの山行として、今まで数回計画するも実現できていない奥穂高岳を考えていた。夏やすみということもあり、平日を絡めて数日の縦走が可能なため穂高連峰縦走、北穂高岳→涸沢岳→奥穂高岳→前穂高岳の三千メートル峰を回ることにした。このルートが岩稜帯であり4つのピークを越えることから、軽量化に取り組んだ。昼食や水は途中の小屋で補給することとし、装備も必要最低限に絞り、50L ザックに詰め込んだ。出発前に計るのを忘れたが、15～16kgという感じで臨んだ。

### 7月30日(日) 天候：晴れ

前夜横浜を車で出発し、沢渡の駐車場で仮眠、さわんどバスターミナル始発に乗る為4時過ぎに行動を開始した。バスチケット売り場にはすでに列ができていたが、日曜日ということもあるのか、無事に始発バスに乗車できた。

上高地バスターミナルで準備を整える。一便に乗れたのでビジターセンター前の広場も空いていた。朝食を摂り、水を汲んで予定通り6時に出発する。下界は暑いのだろうが涼しく快適である。明神、徳澤園、横尾、本谷橋と要所で休憩を取りながら順調に進み、予定より少し早い11時25分涸沢に到着した。軽量化が功を奏したのだろう、このペースであれば北穂まで進むことは可能と考えたが、おでんとビールに目がくらみ、涸沢で幕営とした。

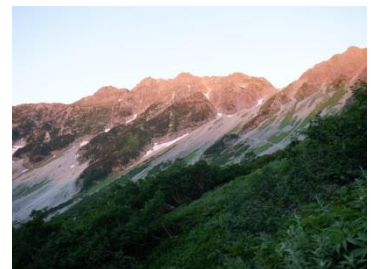


(記：OY)

CT: 上高地 BS6:00 - 明神館 6:42 - 徳澤園 7:43 - 横尾 8:35/8:55 - 本谷橋 9:43 - 涸沢 11:25

### 7月31日(月) 天候：晴れのち曇り

3時に起床、朝食を摂り、テントを撤収し4時半に出発する。薄明るくなってきているので、ヘッドランプは着けずに歩き始める。すでにザイテンに取り付いているパーティも見えるが、登山者は少ないようである。北穂南稜も登山者は少なく、マイペースで順調に高度を上げることができた。途中、5時前に奥穂に日が当たり始め、きれいなモルゲンロートを見ることができた。北穂の山頂までは岩稜帯を歩くことになるが、コースは明瞭で急な箇所も少ないので、予定より少し早く山頂に着いた。山頂からは大キレットから続く槍ヶ岳が青空に映えていた。



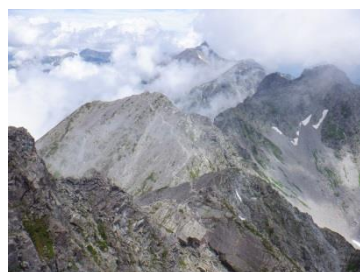
早々に北穂山頂を後にし、涸沢岳を目指す。北穂南峰から稜線を歩くが、飛騨川をトラバースする感じで進む。コースには一定間隔でルートを示す○マークが書かれており、道間違いしやすい箇所には×マークが書かれている。天気が良く視界が良ければ何の問題もないが、ガスや雨装備で視界が悪い場合はルートファインドに注意が必要である。実際、誤ったルートにも踏み跡が明確に残っており、その難しさがうかがい知れた。中でも奥壁バンドは始点と終点に看板があり、通行注意を促す難所であるが、特に切り立った稜線直下をトラバースする必要がある。それでも足元はしっかりしており、掴めるホールドもしっかりあるので、注意すれば問題は無い。最低コルを通過すると、いよいよ涸沢岳への登り返しになる。下から見上げると

かなり険しい岩場に見えるが、ホールド、スタンスとも豊富で落ち着いて登れば問題ない。ただ一カ所、ステップボルトが数本打たれた箇所があり、踏み外すことは許されないので、注意が必要である。涸沢岳の頂上からは穂高岳山荘が見下ろせる。この下りは北穂側とは打って変わり、快適なルートで、難なく山荘に到着できた。

穂高岳山荘では長めの休憩をとる。予定では食堂でうどんでも食べようと考えていたが、営業時間前だったためカップヌードルとコーラでエネルギー補給する。食事中、奥穂へのルートは山頂からの下り登山者で渋滞していた。しかし、平日は登山者も少なく、食事が終わる頃には切れ間ができていたので先を急ぐことにする。奥穂への登りは、出だし急登ではあるが、整備されていて梯子もかかっているの、こちらも〇マークを見ながら進めば問題ない。そしてこの急登も100m程度のもので、その後はなだらかなルートが山頂まで続いている。奥穂山頂に着くころには雲が湧きたち、ジャンダルムや槍は雲に巻かれていたが、時折姿を見せてくれた。

本山行の最終ピークである前穂を目指し吊尾根を進む。相変わらずの岩稜帯ではあるが、アップダウンは比較的少なく、歩きやすい。山頂への分岐である紀美子平へのトラバースは少し険しくなるが、越えれば前穂の山頂が見える。紀美子平でザックをデポし、空身で山頂を目指す。コースタイムで30分の登り、ルートを示す〇マークはあるが、方向だけ間違わなければ難なく登ることができる。しかし、これまで8時間近く行動しているためか、意外にこの30分が辛かった。何とか登頂し、4ピーク踏破することができた。すっかり曇り空となり、周りの山々を臨むことはできなかったが、その達成感は今まで最高であった。

紀美子平で長めの休憩を取り、幕営地の岳沢小屋を目指す。険しいと評判の重太郎新道を下るが、出だしから鎖、梯子が続く、かなり厳しい下りである。岳沢パノラマからは小屋が見えるが、まだかなりの標高差があり、険しい下りが続く。カモシカ立場を過ぎると、ようやく緩やかな登山道となり、ほどなく涸沢小屋に到着した。テント場が少し離れた山側にあり、小屋まで少し距離があるが、こじんまりとした綺麗な小屋である。テント場の利用者も少ないようで、少し離れた場所で平らな場所を選び、テントを張ることができた。



(記：0Y)

CT: 涸沢 4:33 - 北穂高岳テン場 6:41 - 北穂高岳 6:55 - 北穂高岳南峰 7:09 - 涸沢岳 8:48 - 穂高岳山荘 9:19/9:54 - 奥穂高岳 10:34 - 紀美子平 11:59 - 前穂高岳 12:31 - 紀美子平 13:08/13:35 - カモシカ立場 14:28 - 岳沢小屋 15:21

## 8月1日(火) 天候：曇りのち晴れ

6時出発予定も、撤収前に小雨がぱらついていた。急ぐ必要もないので、雲と天気予報を確認しながら、暫く好転を待った。1時間ほど待つと雲が薄くなってきたのでテントを撤収し、上高地へ下山を開始した。岳沢沿いに下る前穂高岳登山道、非常に整備された道で、後半は木道まで整備され、快適な下りであった。雲もいつの間にかなくなり、梓川に出会うことには快晴となっていた。河童橋から望む明神岳に無事下山できたことを感謝し、帰路についた。

(記：0Y)

CT：岳沢小屋 7:14 - 天然クーラー 8:03 - 岳沢登山口 8:30 - 上高地 BS8:49